

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所びーす			
○保護者評価実施期間	令和7年11月10日 ~			令和7年11月14日
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	16名	(回答者数)	14名	
○従業者評価実施期間	令和7年11月4日 ~			令和7年11月10日
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6名	(回答者数)	6名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月8日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども達の特性だけでなく、性格やその時々の状況などを考慮して、一人一人に合わせた療育を行うと同時に、集団療育だから経験できる内容を取り入れながらプログラムを組んでいる。また、専門的支援も取り入れている。	利用者が通っている幼稚園や保育園との関係連携を図り、情報を共有して個別支援計画の内容に取り入れ、より良い支援ができるように努めている。	幼稚園・保育園などの職員と関係を深めていき、子ども達が安心して生活できるように移行支援をしていく。
2	悩み相談や気になる事がある場合には、チャットや電話を用いて気軽に連絡・対応ができる事を伝えている。その為、保護者からの信頼も得ている。	悩みごとがあれば、家族支援や子育てサポート、移行支援の利用ができるようになっている。実際に支援の様子を見学してもらったり、自宅や園での様子を伺って助言する事がよくある。	研修などを通して全職員が専門的な知識を深め、保護者の悩みに対して更に的確な助言ができるように努める。
3	職員同士の関係が良好で、コミュニケーションが取れており意見交換がしやすい。子ども達の成長や気持ちの変化など、小さな事にも気付いたら報告し合える環境が整っている。	子ども達の様子を報告し合ったり、療育について振り返って改善できるように、毎日スタッフミーティングを行っている。	パート職員が勤務時間の関係上ミーティングに参加出来ない為、後日伝えるようにし、ミーティングの内容が全員に周知されるよう留意している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の小学校との連携が希薄な為、情報共有をする機会が少ないので、今後増やしていく必要がある。	小学校と連携が取れる事を保護者に周知できていなかった為、要望がなかった。今後小学校と連携出来る事を保護者に周知し、連携を図っていく。	年長児の保護者に、就学に向けて不安な事が無いかを確認する。保護者も子ども達も安心して、小学校にいけるように支援する。
2	幼稚園・保育園後の利用の子ども達の療育時間が少なくなる事がある。	幼稚園・保育園を利用している子ども達が増えた為来所時間にばらつきがある。療育の時間を確保する為の工夫が必要ある。	利用日数を増やしたり、利用曜日を変更して療育時間を確保している。また、一人一人にあった利用日数や療育内容、時間配分を考えてサービスの提供を行う。
3	使える部屋が一つなので、子ども達が一人になって落ち着ける空間を作る事が難しい。パーティションを利用して落ち着ける空間を作っている。	パーティションを利用したり、職員とフロアの外で一緒にクールダウンする事で補えてはいるが、もう一部屋あれば尚良いと考える。	常に子ども達の環境面は安全で落ち着ける空間になっているかを考えて療育する。